

パラスポーツ大会～競技記録会～(兼 第24回全国障害者スポーツ大会佐賀県代表選手選考会)
ボッチャ競技実施要領

1 競技規則

令和7(2025)年度に適用の全国障害者スポーツ大会競技規則(公益財団法人日本パラスポーツ協会制定)によるもののほか、この要領の定めるところによる。

2 競技方法

- (1) 試合は1対1の個人戦を2エンド行い、2エンドの総得点で勝敗を決定する。2エンド終了後に同点の場合は、タイブレイク(ファイナルショット制度)で勝敗を決める。
- (2) 各プールにてリーグ戦を行う。なお、プール分けに際して障害区分は考慮しない。
- (3) ジャックボールを含めた投球時間の合計は、1エンドあたりそれぞれ4分(ただし、スポーツアシスタントを伴う選手は5分、ランプ使用者は6分)とする。タイブレイク(ファイナルショット制度)では、投球時間は設定しない。
- (4) 各プールの順位決定方式は次の順で行う。
①勝敗 ②直接対決 ③得失点差 ④総得点 ⑤タイブレイク(ファイナルショット制度)
- (5) ウォーミングアップは、各試合開始前に、両選手6球のカラーボールと1球のジャックボールを2分以内で投球練習することができる。
- (6) 競技を開始するにあたって、コイントスにて投球順序(使用するボールの色)を決定する。
- (7) コートの大きさは12.5m×6.0mとする。コートのラインテープはボックスサイドライン、ターゲットボックス、クロスには2.0cm幅、それ以外は4.0cm又は5.0cm幅の白色ラインテープを使用する。競技にて使用するスローイングボックスは3番と4番のみとする。
- (8) 以下の行為については、違反行為として罰則を受ける。
 - ・ ラインを踏む、もしくはボックスの外に足や補装具が接地した状態で投球する
→投球したボールは無効となり、リトラクション(ボール除去)となる。
 - ・ 審判の指示がある前に投球する。または指示がない選手が投球する。
→投球したボールは無効となり、リトラクション(ボール除去)となる。
 - ・ ランプオペレーターが、試合中にコートを見たり、競技に介入したりする所作を審判が認めたとき。
→投球したボールは無効となり、リトラクション(ボール除去)となる。
- (9) 車いす使用者のうち、移動したり、方向を変えたりすることが機能的に困難な選手にはスポーツアシスタントが、ランプ使用者にはランプオペレーターがつくことを認める。
スポーツアシスタント及びランプオペレーターは移動すること、方向を変えること、投球することに対して補助するものであって、選手の意思を離れて競技に介入することは許されない。
- (10) ボッチャの障がい区分は、すべて投球時の姿勢を基準とする。
 - 車いす利用者・座位者
 - ①四肢麻痺者・片麻痺者等、車いすまたは椅子座位で競技をする選手
 - ②投球はできるが車いすの方向を変えたり、移動したりすることが機能的に困難な選手
 - ③投球することが困難で、ランプを使用して競技する選手

※②の選手にはスポーツアシスタントが、③の選手には、ランプオペレーターが1選手に1人認められる。
 - 立位者
立位で競技する選手。競技においては、日常的に車いすを使用しているものでも、投球時に立っているかどうかで判断される。
- (11) 選手は、審判が試合の開始を宣告した後に、コート内の任意の箇所にジャックボールを投球する。
この際、コートを区切るラインに触れたり越えたり、Vラインに触れた位置で停止したり、越えなかったりした場合はデッドボールとなり、ジャックボールの投球権は相手選手に移る。
- (12) ジャックボールが首尾よくコート内の任意の箇所に投球できた場合、ジャックボールを投球した選手がそのままボールの第1球を投球する。このとき、第1球がコートを区切るラインに触れたり越えてしまったりした場合は、同じ選手がボールをコート内に投球することができるまで投球する。ジャックボールを投げた選手がボールの第1球目を投球できたら、相手選手が相手ボールの1球目を投球する。このとき、相手選手の第1球目がコート

を区切るラインに触れたり越えてしまったりした場合は、同じ選手がボールをコート内に投球することができるまで投球する。

両選手のボールが投球されたら、ジャックボールに対してより遠い位置に配置されたボールを投球した選手が投球する。ジャックボールに対しての遠近の配置が入れ替わったとき、投球する選手も入れ替わる。これは、投球すべき手持ちのボールがすべて投げ終わるまで行われる。

(13) 両選手の投球すべき手持ちのボールがすべて投げ終わったとき、審判は投球の終了を宣告し、その後、第1エンドの獲得点数の計算を行う。点数の計算方法は以下のとおりとなる。

- ・ ジャックボールに一番近いボールを投球した選手が勝者となり、得点を得る権利を有する。
- ・ ジャックボールに最も近い敗者選手のボールを基準とし、そのボールとジャックボールの間にある勝者選手のボールが、全て得点対象となる。
- ・ ジャックボールに一番近いボールが、両選手とも同じ位置に配置されている場合、そのボールは全て得点対象となる。

審判は得点の計算が終わったら、選手と観客に試合の点数を宣告し、エンドの終了を宣告する。審判に促された後、ランプオペレーターはコート内を見ることができる。ただし、試合の結果に介入することはできない。

(14) 競技がすべて終了し勝敗が決したとき、審判は選手に勝敗と得点の確認を図り、承諾サインを得る。承諾サインを得たのち選手はコートから退出する。

3 競技用具

- ・ 主催者にてボールを用意する。
- ・ 選手は、自身が用意するボールを使用してもよい。その場合、どちらのチームも自分たちが使用するボールを1セット持って試合に臨むことができるが、これより多いボールを試合に持ち込んではならない。
- ・ ボールの重さは $275\text{g} \pm 12\text{g}$ 、円周の長さは $270\text{mm} \pm 8\text{mm}$ とする。
- ・ 投球補助具(ランプ)は、付属品、延長部、基本部分を含めた最大最長の状態にして横にしたとき、 $2.5\text{m} \times 1\text{m}$ のエリアに収まるような寸法でなければならない。ランプは、ボールを投げることのできない座位の選手が、勾配を用いてボールをコートに送ることを目的としたものであり、加速や減速、狙いを定める機器や、投球に機械的な補助を設ける機器をつけてはならない。
- ・ 選手が競技を行う際に使用する用具は、あくまで自分の力で投球をするための器具である。そのためグローブや棒などが大会の使用に適しているかどうかについては、事前に大会主催者の検査及び了承を受けておくこと。
- ・ 用具検査は公式練習及び招集所においてランダムチェックにて実施する。検査の結果、基準を満たしていないと判断された競技用具は、試合では使用できない。なお、ボールが基準を満たしていないと判断された場合、試合では主催者が用意するボールを使用しなければならない。

4 競技開始時間(予定) 9:00 受付開始 10:00 競技開始

※参加人数により変更の可能性あり。

5 招集

- (1) 選手、スポーツアシスタント・ランプオペレーター及びコーチ(監督含む)は、試合開始 20 分前から 10 分前の間に、使用する競技用具を全て持参のうえ招集所に入ること。
- (2) 招集時間に現れなかった選手は原則として棄権とみなし、試合に出場できない。また、招集時間に現れなかったスポーツアシスタント・ランプオペレーター、コーチは原則として試合に参加できず、招集所に持参されなかった競技用具は原則として試合では使用できないものとする。
- (3) 招集所には選手、スポーツアシスタント・ランプオペレーター及びコーチ以外は入ることができない。
- (4) 競技時間は、原則としてプログラムに記載の競技日程表にしたがって行われるが、試合の延長などにより遅延することがある。その場合は、会場内の記録掲示板に掲示される競技日程表に時間の変更を記載するので、選手及びチーム関係者は都度確認を行うこと。
- (5) 両選手集合後、コイントスにて投球順序(使用するボールの色)を決定する。

6 ゼッケン

- (1) ゼッケンは選手に1枚、スポーツアシスタント・ランプオペレーターに1枚配付する。
- (2) 選手は選手自身または車いすの前面に、スポーツアシスタントは胸に、ランプオペレーターは背面に、ゼッケンを取り付けることとする。ゼッケンを付けていない選手、スポーツアシスタント・ランプオペレーターは招集時の受付ができないので注意すること。

7 その他

- (1) スポーツアシスタント・ランプオペレーターによる競技中の撮影は禁止する。フラッシュ撮影は禁止する。
- (2) 競技エリアへは、選手のほか、主催者や競技役員の許可を受けた関係者以外は立ち入ることができない。
- (3) 貴重品については、各自責任を持って管理すること。
- (4) 競技エリアは土足禁止であるため、各自体育館シューズに履き替えること。なお、車いすの選手については、競技エリア入口に設置するマットにてタイヤの汚れを落とすこと。
- (5) 競技エリアでは水分補給のみ認め、水分補給以外の飲食は禁止する。
- (6) 選手の控所は、指定された場所を利用すること。
- (7) 荒天時ほか不測の事態が生じた場合の取扱いは、主催者において別途決定する。